



## 三重大学にて特別講義

広報・渉外委員会

令和元年 12月3日(火)

津支部 日新設計株式会社 代表取締役 出口 基樹氏

今年も、昨年好評いただいた三重大学工学部建築学科での特別講義が行われました。講師は津支部の日新設計(株) 出口基樹氏にお願いしました。三回生を対象とした90分間の講義時間は3つのカテゴリーに分けられ、学生の皆さんも熱心に耳を傾けました。

まずは『建築のしごと』 設計事務所のほか施工会社・ハウスメーカーなど建築業界の中での様々な職種がさらに細分化され各々が目指すべき方向性の選択肢が丁寧に解説されました。

次に『僕達のしごと』 自らのタイプの異なる三種の建築作品が、仕事上のエピソードを交えて紹介されました。

最後は『君達のしごと』 あるコンペ課題を切り口に優秀作を説明しつつ、例えばコンペなどに応募する等によって得られる『学生時代から実社会とつながることの大切さ』を結びの言葉として伝えられました。

学生からは「やりがいのある仕事をしたいと考えているが建築業界の中でもどの職種へ進むべきか」という質問等もあり、近い将来、彼らが望むべき場所で共に『建築のしごと』に関われることを望むばかりです。



トピックス

# Topics

三重会 会員が日事連建築賞 奨励賞を受賞

『伊賀上野のオフィス』(株)森本建築事務所

令和元年度日事連建築賞選考委員会で、伊賀支部の(株)森本建築事務所の『伊賀上野のオフィス』が城下町の景観区域での地域特性を活かした新しい風景のデザイン、オフィスと住居の在り方に対する取組などが高く評価され、令和元年度日事連建築賞 奨励賞(小規模建築部門)を受賞、第43回建築士事務所全国大会(福島大会)にて表彰されました。



### 【建物概要】

用途：オフィス兼用住宅  
 構造規模：木造軸組工法  
 地上2階建  
 敷地面積：639.81㎡  
 建築面積：331.72㎡  
 延べ面積：391.52㎡



# New face

## 新入会員紹介

### 株式会社宇戸平工務店

一級建築士事務所

代表者 川田 英介  
担当者 川尻 敏孝



住所 〒514-1106  
津市久寿町1232番地の26  
TEL 059-256-1284  
FAX 059-255-0460

### 陽設計

代表者 河合 敏



住所 〒514-0824  
津市神戸1581番地1  
TEL 059-269-7121  
FAX 059-269-7121

### 株式会社大藤工務店

一級建築士事務所

代表者 村木 剛  
担当者 別府 秀幸



住所 〒510-0942  
四日市市東日野町289-3  
TEL 059-321-1800  
FAX 059-321-1834

### 株式会社国原技術 津営業所

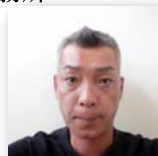
代表者 國府 薫



住所 〒514-0033  
津市丸之内10-9  
TEL 059-226-6656  
FAX

### 一級建築士菌部事務所

代表者 菌部 和宏



住所 〒515-0043  
松阪市下村町1069-6  
TEL 0598-60-1520  
FAX 0598-60-1522

### 株式会社アサヒ住宅

一級建築士事務所

代表者 山下 雅史



住所 〒519-3614  
尾鷲市南陽町9-37  
TEL 0597-22-2433  
FAX 0597-22-2434

### 株式会社アスカ総合設計

代表者 谷川 精一  
担当者 矢野 孝義



住所 〒515-0845  
松阪市伊勢寺町590-4  
TEL 0598-58-3260  
FAX 0598-58-3264

### 株式会社小林設計

代表者 小林 康弘  
担当者 東出 匡央



住所 〒515-2101  
松阪市星合町2198-2  
TEL 0598-56-9666  
FAX 0598-56-9667

### 地主建築設計事務所

代表者 地主 昌美  
担当者 地主 吉隆



住所 〒515-2181  
多気郡多気町相可561番地  
TEL 0598-38-3216  
FAX 0598-38-3212

### フジ建築企画

代表者 藤井 幸男



住所 〒515-2321  
松阪市嬉野中川町264-32  
TEL 0598-42-5047  
FAX 0598-42-5195

### DROPS

代表者 大渡 誠一



住所 〒515-0835  
松阪市日丘町1386-128  
TEL 0598-58-1348  
FAX 0598-58-1348

### ハコイロ田中宏樹建築設計室

代表者 田中 宏樹



住所 〒515-1301  
松阪市飯南町深野748  
TEL 0598-32-3578  
FAX 0598-32-3578

### 南野クラフト建築設計室

代表者 南野 哲志



住所 〒512-8047  
四日市市八千代台2丁目1-47  
TEL 059-337-0786  
FAX 059-337-0786

### 株式会社森本建築事務所

代表者 森本 雅史  
担当者 森本 景二



住所 〒518-0623  
名張市桔梗が丘3-2-68の4  
TEL 0595-65-2638  
FAX 0595-66-2639

### ヒロスペース設計

代表者 小林 弘和



住所 〒511-0853  
桑名市増田530-4  
TEL 0594-87-6835  
FAX 0594-87-6834



## 志摩支部

志摩支部は現在11名の会員で構成されています。  
 ここ数年で3名が退会し、3名が入会しています。  
 定例会は、ほぼ隔月で行っています。  
 今年度は9月14日(土)に地元大王町波切のわらじ祭り会場で行われた、建築士事務所キャンペーンに支部会員全員で参加させていただきました。



- 支部総会 4月26日(金)  
議事：決算報告・事業報告等
- 第1回例会 6月14日(金)  
議事：理事会報告、各委員会報告  
建築士事務所キャンペーン会場の検討
- 第2回例会 8月23日(金)  
議事：理事会報告、各委員会報告  
建築士事務所キャンペーン「わらじ祭り」事前打ち合わせ
- 第3回例会 10月22日(火)  
議事：理事会報告、各委員会報告  
令和2年度 志摩支部の支部長、副支部長の決定  
志摩市 空家対策における「特定空家等」判断作業への協力依頼について

## 伊賀支部

伊賀支部では、支部総会に始まり、行政との懇談会や賛助会員様のご協力による建材説明会、研修会を開催し、会員の研鑽に貢献すると共に、会員相互の親睦を深め、さらなる発展に努めています。

三重県伊賀建設事務所様、公益財団法人三重県建設技術センター様、伊賀市様、名張市様と建築法令等懇談会を開催しました ▶



6月10日と10月15日に賛助会員様のご協力のもと建材の勉強会を実施しました。 ▶



▲ 研修会で、大阪にあるI T O(株)様の防災減災システム「ボーグッツ」の見学をし、被災時にインフラ復旧までのガス供給システムについて勉強しました。又、ヤンマー本社では、2015年に完成した「こだわりの食+ゼロエミッションビル」YANMAR FLYING-Y BUILDING の見学の後、パナソニックミュージアムにて松下幸之助歴史館で理念や懐かしい製品の見学をしました。



## 鈴鹿支部

鈴鹿支部では令和元年7月13日に毎年恒例のバーベキュー大会を開催し、会員の親睦と家族サービスを兼ねた催しを行いました。



鈴鹿市の事業である鈴鹿市防災訓練や住宅耐震化緊急促進アクションプログラムである住宅耐震診断の普及啓蒙活動に参加しています。今後も行政の事業への参加も積極的に行っていきたいと考えております。

令和元年10月19、20日に支部研修旅行を今年度も実施しました。今回は熊本城の復旧見学や八千代座などの文化財を周り勉強と親睦を深める良い機会となりましたので、今後も引き続き継続できればと考えております。



## 桑名支部

桑名支部は本年度10月に新入会員1社を迎え、現在総勢19社のメンバーです。

桑名支部では毎年行っている行政懇談会を今年は7月25日に行いました。桑名市長をはじめ各行政の担当に出席をいただき、積極的な情報交換をするともに、要望等をお願いしています。

また、11月3～4日には福井県に親睦旅行に出かけ、魚釣りなどを楽しみ海の幸を堪能してきました。今後とも一致団結して、地域に貢献できる団体として活動していきたいと思います。

平成31年4月19日	定時総会（第54回）
令和元年5月29日	合同委員会
令和元年6月7日	通常総会（三重会）
令和元年6月18日	第一回例会
令和元年7月25日	第二回例会・行政懇談会
令和元年8月28日	第三回例会
令和元年10月4日	全国大会（第43回）の参加
令和元年10月23日	第四回例会・臨時総会
令和元年11月3～4日	親睦旅行
令和元年12月11日	第五回例会
令和2年1月24日	賀詞交換会（予定）
令和2年2月14～15日	三支部合同懇親会（予定）
令和2年3月11日	第六回例会（予定）



行政懇談会の様子



例会・臨時総会の様子



●紀州支部●  
株式会社  
アサヒ住宅  
一級建築士事務所

- 所在地：〒519-3614 尾鷲市南陽町9-37
- TEL：0597-22-2433
- FAX：0597-22-2434
- 代表者：山下 雅史
- 設立：平成7年12月21日

アサヒ住宅では、豊富な土地情報とお客様のライフスタイルや資金プランにピッタリの土地を、建物とセットでご提案しております。当社の建てる家は、お客様からヒアリングした内容～こだわりとライフスタイル～に基づいて、一棟一棟自社で設計し、自社で施工いたします。

そしてお客様に、安心してこれからの人生を健康的に暮らして頂けるお住まいをお約束するために、ずっとアフターサービスが続けてまいります。



## 事務所紹介

- 所在地：〒511-0853 桑名市増田530-4
- TEL：0594-87-6835
- FAX：0594-87-6834
- 代表者：小林 弘和
- 設立：平成28年1月14日

●桑名支部●  
ヒロスペース  
設計

事務所を立ち上げようと決めてから設立後4年近くになります。おかげ様で多くの方々のご支援により現在に至ります。設立前までは設計事務所や工事会社等で主に住宅、店舗等の意匠設計・監理を行って来ました。設立後では住宅等の設計監理を中心としつつも、その傍らに建築パース作成や、不動産等のチラシデザインといった、建築に関するグラフィック業務も行っています。

設計事務所だからこそできる視点を常に意識し、本職の可能性を多角的な視点から見つめていく事で何か社会貢献ができないかを考えております。

微力ながらもお客様に喜んでいただけるように自己研鑽をしつつお役に立てるように頑張っていきたいと思っております。





- 所在地：〒512-8047 四日市市八千代台2-1-47
- TEL：059-337-0786
- FAX：059-337-0786
- 代表者：南野 哲志
- 設立：平成17年3月25日

## ●四日市支部●

南野クラフト  
建築設計室

建築模型製作事務所「南野クラフト」として、平成13年9月に開業し、住宅・マンション・公共建築等の模型製作を行ってきましたが、平成17年に建築士事務所登録を行い、現在に至っています。

本業を活かし、NPOボランティア活動として三岐鉄道三岐線丹生川駅前の貨物鉄道博物館で、1900年代初頭に製造された文化財クラスの木製・鋼製貨車の保存修復作業を行っています。現在は、四日市の工場で1900年に製造された国内現存最古の貨車の実測・復元設計を行い、竣工を目指しているところです。

是非一度、貨物鉄道博物館へお越しください！

【開館日：毎月第1日曜日（1月のみ第2日曜日）10時～16時、入館無料】



## 事務所紹介

## ●鈴鹿支部●

みむら設計  
一級建築士事務所

- 所在地：〒510-0224 鈴鹿市若松中二丁目8-30
- TEL：059-385-2904
- FAX：059-385-2904
- 代表者：三村 勝弘（担当者：三村 隆文）
- 設立：昭和53年9月

父から管理建築士を変更し3年ほど経ち実質1人でやっている状況ですが、少ないながらも、様々な業務に携わらせていただいております。仕事を始めたころは耐震診断や定期点検の業務なんて想像もしていませんでしたが現在はそんな業務が増えています。

仕事の一つ一つに何からご縁があってさせていただいていると思っていますので今後もご縁を大事にしてやっていければと思っています。





# 目 安 箱

## 日本建築のモラル

鈴鹿支部 岡村 信之

昨今、機会を得て中国江蘇省で設計監理のお仕事をさせていただく機会を得ました。

お国が変われば仕事の流儀も変わりましたが、戸惑うことも多いわけですが、40年近く建築設計業務に関わってきた私には、刺激的でわくわくも致しました。

「日本の建築基準法・建築関連法規は、精巧で且つ適切に運用実施されている」ことを実感します。ここ近年、偽装を発端に建築確認申請の制度も変化し、建築データ・施工の偽装などもニュースで多いように感じます。政治の世界でも、「忖度・そんたく」という言葉が流行するほど、補助金・事業認可の厳正さを求めるのが日本です。

しかし、中国では60を超える申請・許可がおり、その申請の多くが各部局の担当者による所感で判断され、「忖度」抜きではスムーズな許可は望めないことに驚きました。日本の「建築許可の制度の先進性と簡便さ・公平さ」を強く感じたのであります。

現場に入ると、驚かされることは、日本と違って信頼を前提に仕事をしないということです。車両出入口と職人出入口共、材料全数検査・持ち物検査・持ち出し物検査を行います。出荷証明・製品保証書はむやみに信頼せず、すべてを検査します。建材の質・量共に全数確認するため、官庁系の質量監督署係員3名が現場に常時住み込みで立ち会います。

専門でない職人200名に対し100名の指

導員が付き、指導員の監督に30名の監督員が付き、そのまた30名の監督に10名の上級監督員が付き、その上に建築、電気、設備各専門の監督員、さらに統括監督が取り仕切る多層チェック体制です。その統括監督たちの監督監査人までおります。

日本では、古来伝統である専門職の職人と職長の管理を信頼し、その施工報告を工事保障に代え、設計の検査は、1割程度の抜粋で、残りは施工の自主検査を信頼します。でも、一部の不祥事を除き、日本建築のモラルは高く、結果、精巧な建築物が出来るのです。



## リノベーションについて

津支部 前川 忠則

近年、弊社においても住宅を中心にリノベーション需要が多くなってきています。そこで近況の御報告とともにお話ししたいと思います。クライアントからの相談はまず建替えかリノベーションかの選択から始まります。

最初に言葉の整理をさせていただきますと「リフォーム」とは、古くなった内装を



新しくしたり、設備を入れ替えること。具体的には壁紙の張替え・床材の張替え・キッチンの交換・浴室の入れ替えなど、比較的小規模な改修を指します。リフォームの目的は「室内をきれいにする」ことです。

つぎに「リノベーション」ですが、こちらも内装を新しくするという意味ではリフォームと同様です。ただしリノベーションは、単に室内をきれいにするだけではなく、個々のライフスタイルに応じた空間に生まれ変わらせて、住みやすさの向上と新たな価値を創造することが目的となります。そのため、間取りの変更をとまなう大規模な工事となるのが一般的です。

#### 【リノベーションのメリット】

①新築（建て替え）よりも建築コストが抑えられる。

リノベーションは、既存の建物を活かしながら室内・外観を一新するため、新築住宅よりも建築コストを抑えることが可能です。さらに建て替えの場合は、既存の建物を取り壊して更地にする必要があるため、解体費用と廃材の処分費用が掛かります。

②自由な間取りとデザインに設計できる。

リノベーションによって、ライフスタイルや価値観に応じた、デザイン性の高い自由な間取りの住まいを実現することが可能です。例えば築年数の古い住宅は、室内を細かく仕切って部屋数を多く確保した間取りが多い傾向があります。リノベーションで間仕切り壁を取り払えば、現代のライフスタイルに合わせた開放感のある空間に生まれ変わらせることができます。

#### 【リノベーションのデメリット】

①構造によっては希望の間取りにできないケースがある。

リノベーションの際、建物の工法・構造によっては撤去できない柱や壁があり、希望の間取り変更が難しいケースもあります。

しかし、構造上の制約を感じさせない代替プランを提案して逆に個性として生かすケースにすることもあります。

②新築（建替え）よりも費用がかかるケースがある

既存の住宅の構造（基礎部分や柱など）に傷みがある・古い耐震基準で建てられているなど、建物に十分な強度が確保されていないと判断される場合、内装工事に取り掛かる前に補強工事が必要になります。この補強工事の費用がかさむと、リノベーションの総費用が新築（建替え）と同額かそれ以上になってしまうケースも。この場合は事前調査を十分行い、補強工事を行なう必要があるのか、その場合はどれくらいの補強費用が必要か検討します。

#### 【リノベーションを受けた顧客の感想・御意見など】

①工事コストは新築の場合の約6～7割に抑えられること。

たとえば床面積40坪程度の住宅が坪単価70万円とすると、同仕様リノベーションで坪単価40～50万円となります。

②建物を長寿命にすることでエコにつながること。

弊社で手掛けた事例の多くは屋根・柱・基礎・一部和室のみ残して、新耐震基準の構造補強を行った上で工事を行いました。特に和瓦の家は屋根材を100年寿命まで維持することは十分可能な為、間取りの規制は多少あったとしても、建物を大切にすることを実感できます。またリノベーションで廃材が少なくなることで環境に対してエコとなります。新築計画を営業するより感覚的に倍くらいの現場確認作業を伴うリノベーション工事ですが、建屋が完成し引き渡した時の顧客の満足度がかなり高いこともあり、こうした地道な営業活動で顧客を増やしていきたいと常々考えています。





## 「木造住宅の耐震」

松阪支部 南 宣臣

三重県では事務所協会と建築士会、建設労働組合、日本建築家協会東海支部三重地域会、日本構造技術者協会中部支部三重部会、建設業協会が三重県木造住宅耐震促進協議会を結成して、県・市町と連携し昭和 56 年 5 月以前建築の木造住宅への補助事業への協力、昭和 56 年 6 月以降の木造住宅の有償での耐震診断・耐震補強業務への取組みを構成団体と協働し進めていることご存じの方も多いと思います。

特に昭和 56 年以前建築の木造住宅は耐震性能が不確実のため、迫りくる南海トラフ地震に耐えきれないと予想され、そこに住む県民の生命・財産を守るため国・県・市町から補助金が手当され耐震診断・耐震補強が進められています。この業務が平成 14 年に始まり、その間東日本大震災、熊本地震が発生し、耐震診断規準も 2 回改定されました。当初は 1 階だけ定量的評価をする耐震診断の業務でしたが、今では法整備もされ専門的知識・技術がより必要となり、木造住宅の調査・状況把握から耐震診断・補強に至るまで技術習得者が養成されており、事務所協会会員の多くの方が木造住宅耐震促進協議会登録の診断員等として日々活躍されています。

現在三重県では県下の木造住宅の耐震化目標として、令和 2 年度までで耐震化率 95% を目標にしているわけですが、昭和 56 年以前建築の木造住宅に限ってみますと、平成 15 年当初県下に 19 万戸以上存

在するとされ、現状では未だ 11 万戸以上耐震化されずにいると推計されており、これが耐震化率の進まない原因の一因と思われます。

ただ木造住宅耐震促進協議会では、近年昭和 56 年以前建築の木造住宅の耐震診断件数は増加傾向にあり、耐震診断件数はこの 2 年連続で 2,000 件を超えておりますが、逆に耐震補強件数は 100 件に満たない状況だとのことでした。

その内容を分析すると、解体も想定の診断件数が非常に目立っており、解体補助金による耐震化の効果がかなり占めてきている状況とのことでした。

耐震補強するのではなく解体するというのにはいろいろな理由が考えられ、建て替えのための除却もあれば、不要物撤去もあると言われていています。

以上の傾向から私が思うのですが、解体することで倒壊の危険が消えることには十分な理があり、それで耐震化率が上がるのも事実です。

「すべからく朽ちていく」原理「前を向くを良しとする」が自然の理なのかもしれません。

確かに空家協議会などに参加してその実際に触れますと、解体除却が最善のような例に多く当たりますが、中には住まう人がなくなったという理由で建物が持つ歴史までもが消えていくとすれば、ことさら‘寂しさ’を感じます。

これまでのこの目安箱に投稿された各々の文章の中で、「残す」という意義にふれられた方々の意見が思い起こされます。



## チャレンジあるのみ

伊勢支部 中村 貴司

私は大学の建築工学科を卒業して、(株) 鴻池組に入社しました。ゼネコンの花形、現場に配属。毎日が墨だし・施工図作成。最近のゼネコン職員は墨だしも施工図作成もしないと聞いて、時代の流れを感じます。その後、元大工の父が営む木造住宅中心の会社に戻ってきました。

当時は経審の点数を上げて、大きな公共工事の入札に入れるようにとチャレンジ。免許所持者も増え、A ランクになりました。2 × 4 工法・大断面集成のラーメン構造・ログハウス・木造 3 階建て、在来木造にこだわらず、木造領域でチャレンジしました。時はバブル崩壊。コンクリートから人にと公共工事が激減し、景気が悪くなっていきました。監督さん、大工さん、土木スタッフ、事務員さん、社員全員でなかむら建設の売りは何なのか、何度も何度も会議を開催しました。コンクリート造・鉄骨造ではライバル会社と比べて、代わり映えがしない。木造なら経験も豊富で勝負できると思い、非住宅でも木造にチャレンジ、どんどん提案営業しました。

下請けをせず、自社の商品を作ろうとチャレンジ、「名前のある家づくり」、「今、甦る昭和の家 強く・美しく」、「建てるから守へ」

伊勢市駅前の鳥居・四日市鶴の森公園の冠木門・伊勢志摩サミット国際メディアセンターの檜の回廊とランドマークの木構造物の建築にチャレンジ出来ました。5 年前に CLT の建築の依頼がありました。CLT という言葉すら知りませんでした。ゼネコ

ン根性と、今までの経験から木造なら何とかかなと根拠のない自信でチャレンジ。その後、日本で初めての CLT 住宅、壁倍率 5 倍の CLT60 ミリパネルの開発、CLT 造と RC 造と S 造との環境負荷を数値比較と、前へ前へとチャレンジ。今までは三重県の南勢地方でのみ仕事をしていましたが、全国の木構造にチャレンジする人達とお話する機会が増えました。最近、フィンランドの建築家が CLT60 ミリパネルの事務所を見学しにみえました。遠くヨーロッパで CLT にチャレンジする建築家との建築談議はとても楽しかったです。

日本の世帯人数、家族の概念もまだまだ変化しています。私の感覚ではいつまで変化するのか先が見えません。新築だけでなく、ストックのリノベーション、用途変更と我々建築士事務所が携わる仕事はまだまだつきません。来年 60 歳ですが、60 歳からがチャレンジ。





## 視点・論点

### 建築費用

ここ数年建築費用はどんどん高騰しています。

特に鉄骨造とRC造に至っては、ここ数年で3～4割程度も費用が高くなっている印象です。私の会社でも、当初想定していた予算に合わないケースが多々あり、変更するのが常になっている状態です。そのよくいわれている要因が建築資材と人件費の高騰です。

今回は、建築費用の高騰に至った背景をみていきたいと思います。

建築費用の高騰の背景には、東日本大震災（2011）の震災復興・東京オリンピック（2020）・再開発工事などの建設ラッシュが大きな要因となっております。また、2025年には大阪万博も控えております。これにより、生コン、セメント、鉄鋼製品（鉄骨等）などの建築資材が高騰し、建築費用の高騰につながっております。昔は、RC造に比べると鉄骨造のほうが安かったのですが、現在では、鉄鋼製品（鉄骨等）の極端な値上がりによって差はなくなってきております。冒頭でお話した予算に合わないケースのほとんどが、この鉄骨等の鉄鋼製品の高騰によるものです。コストを抑えるため鉄骨造で設計したのが資材の高騰で当初予算に合わない。また、資材や人手不足による大幅な工期遅れが発生し、設計を見直さなければならないのが現状です。

そして、もうひとつが人件費の高騰です。

建築業界の人数は昔と比較してもあまり大きく変わってないのが現状です。若い人材が増えない要因には、現在の建設ラッシュ後のこの先の将来を不安視しているのではないかと考えられます。そのような状況の中、建設業界では人材確保のために、賃金が高くても中・高年への求人募集が数多く見受けられます。人材不足と高賃金、これが人件費の高騰につながっていると考えられます。

今後も建設ラッシュが数年は続きますので、建築費用も高騰か良くて横ばい状態だと予測されますので、皆様におかれましても、予算と工期には情報収集の上、余裕をもって対応していただきたいと思います。

津支部 山路 貴裕